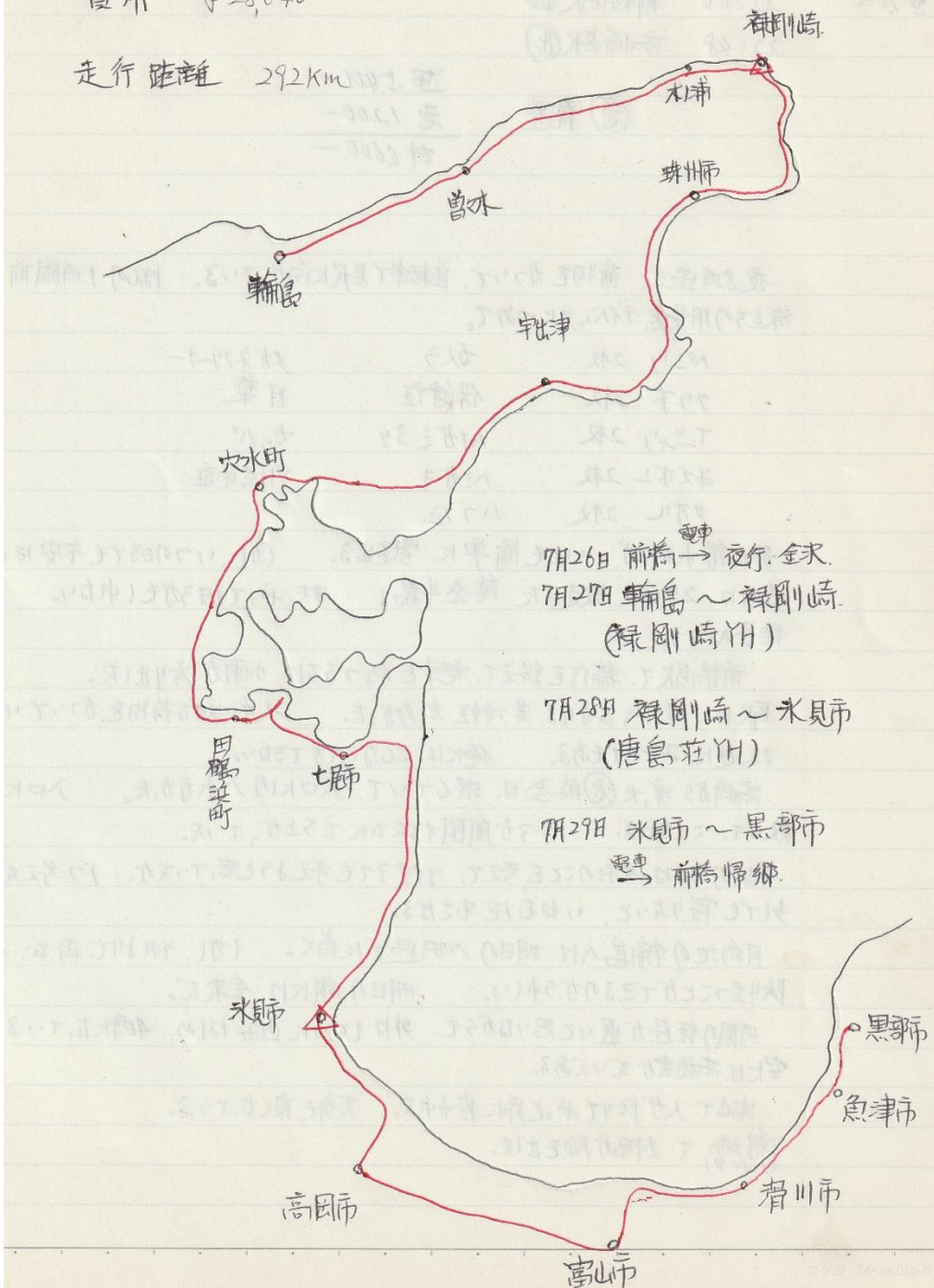


能登半島 (輪島～黒部)

1986年7月²⁶/27. 28. 29日
3泊3日

費用 28,040-

走行距離 292km



7月26日 前橋^電→夜行. 金沢.
 7月27日 輪島～禄剛崎.
 (禄剛崎YH)
 7月28日 禄剛崎～米見市.
 (唐島荘YH)
 7月29日 米見市～黒部市.
 電車→前橋帰郷.

** チャリンコ旅日記 No.9 **
** Resistance Of My Mind 19910815 **

【 1986年7/26日から29日 輪島市 から 黒部市 292Km 】

【7月26日(土)】 走行距離 0Km
(電車)前橋駅 → 高崎 → 金沢駅 走行時間 0分

20:20 自宅 出る
22:06 前橋駅 出る 電車 ¥6600-
22:48 高崎駅 出る

夜8時過ぎ、ほんの1時間前に揃えた旅の用意をデイバックに詰めて、自転車で駅に向かっている。今回は、2年前に怪我をした能登半島。また、やってしまうかもしれない。それでも、いつかは走らなくてはならない。だから能登へ向かう。

前橋駅で、電車を待つうちに小雨が降りだした。駅は、終末の為か旅行に出かける若い女性が多く、一人で大きな荷物を担いでいる自分が誇らしかった。また、逆に惨めでもあった。俺には、こんな事しか出来ない。

高崎から乗った急行能登は、混んでいて中に入るのがやっとだった。ドアの段差にビニールを敷いて腰掛けている。駅で止まってドアが開く度に立ち上がっていた。暇な徒然に、仕事の事を考えていたが、すぐに飽きて居眠りを始める。目的地の輪島へは、明日の10時過ぎに着く。しかし、再び金沢の町に降り立つ事ができる事が嬉しい。明日の朝には、金沢だ。

時間の経過が遅いと思いつつも、外は次第に白み始め、4時になっている。心配していた天気も良くなっている様だ。雲が少なくなっている。富山駅で人が降りて、やっと席に座れた。

流れ行く景色を眺めながら2年前の出来事を回想していた。予定では、2年前に能登半島を一周しているはずだった。でも途中で、交通事故を起こしてしまい、能登半島の先端で自転車旅行は中断したままになっていた。それ以来、私の部屋の日本地図も金沢から延びた赤い線が、能登半島の先端からそれ以上引かれる事はなかった。2年経った今、またその続きが始まろうとしている。

【7月27日(日)】 快晴

走行距離 50Km

(電車) 金沢駅 → 輪島駅

(自転車) 輪島駅 → 禄剛崎

5:29	金沢駅 着	11:10	輪島駅 出る
6:20	兼六園へ向かう	20	稲舟海岸 かつソ ¥600-
7:00	着 入園 ¥300-	42	出る
	バス ¥150-	12:30	曾々木
8:00	金沢駅 出る	57	赤神分岐
	急行能登路 ¥2900-	13:23	木ノ浦展望台
10:19	輪島駅 着	29	木ノ浦トンネル(事故現場)
		44	狼煙駐車場 アイスジュース ¥200-
		14:08	禄剛崎燈台
		26	YH着 ¥2600- ジュースバナナ ¥780-

朝6時頃、金沢駅に到着。自転車を派出所に勝手に預けて、歩いて兼六園に行く。兼六園まで4、50分掛かってしまい、園内に10分程いただけですぐにバスで駅に戻った。

急行能登路に乗って、終点輪島駅には、10時19分に到着。夏の日差しが強く、とても暑い。今日は、能登の先端、禄剛崎にあるYHに泊まるので、時間に余裕がある。夏の日差しは、走っている私に容赦なく照りつけ、腕や脚は汗で光っている。Tシャツを肩までまくっても暑い。左手に日本海を見ながら走るアップダウンの激しい道。景色がなぜか黄色みを帯びて、幻覚の世界を走っているような気がする。

輪島から2時間程。見覚えのあるきつい登り。右に左にカーブを曲がる度に空に近づいて行く。そして、空に届かないうちに道はなだらかになり、前方にトンネルが口を開けて待っているのが見えた。「ここだ、2年前に俺が事故を起こした所は。」トンネルの手前の木ノ浦展望台で、ひと休みして気分を取り直してからトンネルに入る。「このトンネルを出たところが右カーブになっていて、2年前には、スピードを出し過ぎていて、スリップして転んでしまった。そして顎を骨折、1カ月間入院。」ゆっくりと、トンネルを走り抜け、トンネルを出たところで2年前の事故現場の写真を撮る。そこは、事故を起こす様な場所には見えなかった。

ここから能登半島の先端、狼煙まで20分もかからなかった。

この地、禄剛崎の燈台をしばらく散歩する。夏暑い日差しも現地に着いた今では、心地よい。もっともっと俺の肌を焼いてくれ。紺碧の空と海とが決して融け合うことなく、微かな水平線の青いカーブが俺を取り巻いている。山口誓子がこの地を、“ひぐらしが 鳴く 奥能登の ゆきどまり”と、読んでいる。

【7月28日(月)】 快晴

走行距離 163Km

禄剛崎 — 穴水町 — 氷見市

走行時間 9時間8分

4:20	起床 漁港散歩	10:45	休み 牛乳 ¥70-
5:45	YH 出る	47	出る
6:00	須須神社 休み	11:12	田鶴浜 ハ ^o イッブル、レモン、ジュース
06	出る	40	出る ¥375-
45	珠洲市	50	和倉温泉駅
7:05	恋路海岸	12:26	七尾駅
52	羽根 休み	49	殿トンネル
58	出る	13:28	虹ガ島 休み
8:10	宇出津	58	出る アイ ¥230-
46	うかわ 休み	14:06	大境洞窟住居跡 ジュース ¥100-
9:07	出る マゴドソブリ ¥450-	22	出る
10:02	穴水 休み アイ、ジュース	53	唐島荘YH 着 ジュース、アイ ¥290-
20	出る ¥150-		YH ¥2700-

日の出前に起きて、狼煙漁港を散歩する。昨夜、狼煙駐車場で開かれた山伏太鼓の響きが、体の中にまだ残っている。日の出前、小さな漁港では、船から降ろした網から魚を取る作業をしている夫婦が何組かいた。傍らのバケツには、数える程しか収穫がない。話を聞いたら「夜中1時頃、小さな漁船で沖まで出かけて行き、前日の夜仕掛けた網を引き上げて、朝方戻ってくる。」と言う。その結果がこのバケツ。思わず、自分の仕事と漁師とを比べて考えていた。普段、嫌だと思っていた自分の仕事が、なんと楽な事か。

YHを出るとき、おばさんがトマトを一つくれた。小さな漁村の小さなYH。禄剛崎YH。おやじさんは、漁師だ。

今日は不思議と、朝8時頃だと言うのに、夕方走っている様な気持ちで「もうだいたい走ったな」と思って時計を見ると、まだたいして走っていない。疲れて疲れて、30分おきに休んでいる。和倉温泉の手前の田鶴浜町のスーパーでレモンを買って店先でかじっている。その酸っぱさが気持ち良い。女子学生が通りかかったので、ちょっと話をする。夕方3時頃、氷見市のYHに到着する時には、腕や首が陽に焼けてひりひりして痛かった。

【7月29日(火)】 快晴

走行距離 79Km

(自転車) 氷見市 — 富山市 — 黒部市 走行時間 4時間29分
(電車) 黒部駅 — 高崎 — 前橋駅

4:40	起床	9:22	魚津埋没林 入場 ¥60-
5:35	YH 出る	32	出る
6:22	高岡市街 路面電車	10:04	黒部駅 7分 ¥100-
28	休み 牛乳、寿司		
44	出る ¥450-	12:23	黒部駅 出る ジュース ¥500-
7:33	富山城跡		特急白山2号 ¥6500-
50	富山駅	16:19	高崎駅 着
58	出る	16:54	出る
8:27	岩瀬 ジュース ¥100-	17:15	前橋駅着
29	常願寺川	18:00	自宅 着
9:05	休み ほか ¥200-		
09	出る		

朝4時、目覚める。6時に出発する予定だったが、すぐに出発する事にする。11時過ぎの特急白山2号に乗る為に、富山駅に向かう。早朝、道はすいていたが、次第に混んできてくる。通勤ラッシュの時間になってきた。でもその頃、富山駅前にいた。富山城を見物して駅に入るが、まだ8時。電車を待つには、まだ早い。次の白山2号の停車駅を確認して、黒部駅に向かう。40Km位しか離れていない。海岸沿いに走る道は、次第にわけが分からなくなる。そして、防波堤が頭上高く家並みを包み込む様に取り巻く路地に入ってしまった。でもひと時、この地の生活に触れた様な気がする。さぞ冬の生活は大変だろうと思いながら、さらに北へ向かう。

黒部駅に着いたのは、10時。電車まで、あと2時間ある。自転車を分解して、駅でゆっくり休む。

白山2号は混んでいて、高崎までずっと立っていた。でお、昼間で景色を眺めていられたので気がまぎれた。

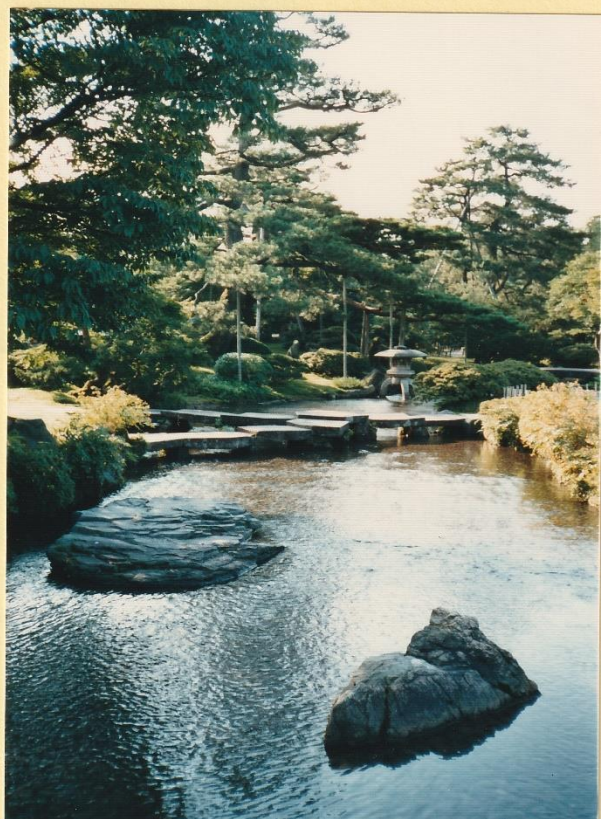
充実した三日間の連休があつというまに終わってしまい、能登半島を無事攻略することが出来た。



0727

金沢
兼六園

0729 富山城跡





0727
木ノ浦

二年前の
事故現場。

木ノ浦トンネル



木ノ浦海岸

0728

祿剛崎
日の出



0727

祿剛崎夕景



ひぐらしが
鳴く
奥能登の
ゆきどまり
並子





0728
禄岡崎
夜明け



夕陽の光
海を染めて
静かなる
夜明け



0727
 狼煙
 山伏太鼓





0728 恋路海岸



0728 水見港 夕景